

てんぐ 天狗の話

中国では、天狗はもともと流れ星のことで、天から地上にやってきて、悪いことを引き起こすと考えられていました。

しかし今知られているような天狗ではなく、ネコに似たイヌの姿をしていました。それが日本に伝わり山伏姿^{やまぶしずがた}となってきたのは鎌倉時代^{かまくら}（今から800年くらい前）と考えられています。

天狗は想像上の生き物^{そうそうじょう}ですが、昔から人々は天狗がいると信じていて、天狗の住む森や山を大切にしてきました。

山の中で笑い声がすると「天狗笑い」、石がどこからかおちてくると「天狗のつぶて」、山小屋が揺れると「天狗ゆすり」といって、不思議なことがおこるとそれは天狗のしわざだと考えられていました。

また、天狗はうちわを使って火を自在^{じざい}にあやつると信じられ、火事は天狗のしわざと考えられていました。そのため^{ふせ}に火事を防ぐ水の神様として^{しんこう}信仰されていました。



てんぐまんだらす
天狗曼陀羅図（江戸時代）



©kometani

豊前市のマスコット
キャラクター、
「くぼてん」も
カラス天狗だよ。

求菩提山^{くぼてきさん}には「次郎坊^{じろうぼう}」という名前のカラス天狗が住んでいるといわれています。



はちてんぐぞう
八天狗像（江戸時代）